

《基本問題》

問1 次の傍線部の助動詞について、後の問いに答えよ。

- ①草の上に置きたりける露を、(p26・3)
- ②行く先多く、夜も更けにければ、(同)
- ③鬼、はや一口に食ひてけり。(同・6)
- ④露と答へて消えなましものを(同・10)

- (1)それぞれの助動詞の接続を答えよ。
- ①連用形 ②連用形 ③連用形 ④未然形

(2)それぞれを文法的に説明せよ。(ヒント：文法書p44右下)

- ①存続の助動詞「たり」の連用形。 ②完了の助動詞「ぬ」の連用形。 ③完了の助動詞「つ」の連用形。
- ④実現不可能な希望の助動詞「まし」の連体形。

問2 次の傍線部の語句を文法的に説明せよ。(ヒント：文法書p14右下)

- ①女のえ得まじかりけるを、(同・1)
- ②「かれは何ぞ。」となむ男に問ひける。(同・3)
- ③はや夜も明けなむと思ひつつみたりけるに、(同・6)
- ④率て来し女もなし。(同・8)

- ①ア行下二段活用動詞「得」の終止形。 ②過去の助動詞「けり」の連体形。
- ③ワ行上一段活用動詞「居る」の連用形。 ④力行変格活用動詞「来」の連用形。

問3 次の文章を現代語訳せよ。

- ①女のえ得まじかりけるを、(同・1)

女で手に入れることができそうになかった女を、

【採点基準】

- A 同格の「の」の訳出(女で女を)、 B 「え」打消「の」訳出(できない)
- C けそうにない(打消推量) D した(過去)

- ②鬼ある所とも知らず、神さへいといみじう鳴り、(同・4)

(男は) 鬼がいる所とも知らず、雷までもとてもたいそう鳴り、

【採点基準】

- A けしないで(接続助詞「で」) B 雷 C けまでも(副助詞「さへ」) D とてもたいそう(「いと」「いみじう」)

- ③はや夜も明けなむと思ひつつみたりける(同・6)

(男は) 早く夜も明けてほしいと思ひながら座っていた

【採点基準】

- A 早く B けてほしい C 思いながら(接続助詞「つつ」) D 座る(「居る」) E けている(存続) F した(過



⑩ 「白玉か何ぞ」という発言から、女が草に置く露を見たことのない深窓の姫君だったことが読み取れる。